産業基盤の重要な役割担う管工機材

カップリング・冷媒フレキのアトムズが20周年

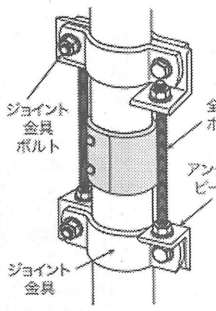
10月に脱管防止『抜け止めくん』発売

コロナ禍をPDCAに活用

小鹿島　太郎社長

空調・衛生設備配管機材の営業・技術で培ったノウハウを持って起業したアトムズ（本社・千葉県松戸市中根548）が本年会社設立20年という節目を迎えた。同社の設立は2000年（平成12年）1月1日で、現在の小鹿島太郎社長の厳父で相談役を務める小鹿島温武氏の手に依るもの。

昨年春以降、凡そ1年半に渡るコロナ災禍だが、アトムズにおいての現況を小鹿島太郎社長に聞いた。「2019年までは全国の公立小・中学校の空調化工事において当社の冷媒銅管用フレキシブルジョイント（冷媒銅管用変位吸収継手）「レフリックス」（以下＝レフリックス）がエキスパンションジョイントの施工において多岐に渡り、採用されたことで増収増益となった。この流れを引き摺る形で2020年度を迎え、前半は貯金ができたものの、3月以降の首都圏を中心とした緊急事態宣言の発出により、社内における感染防止対策や営業活動の制限等もあり、大きく影響を受けたが幸いにも上期の貯金が功を奏し、9月の決算は一時期、35㌫ダウンといった月もあったものの売上比で前年3㌫増の着地を果たした。また収益についても販管費等の削減や一部ドル決済に関わる為替の変動もあり、売上に追従する形で微増となった。さらに昨年10月以降の2021年度についてはコロナ禍との共生を行いつつ、徐々にではあるが需要の戻りを感じている。学校空調案件へと移行し、特に首都圏等の狭小スペースに隣接する校舎と体育館のような案件に対してレフリックスの需要があるほか、営業出張が出来なかった期間に新製品の開発を2件、さらにブラッシュアップを今年に入って1件、また10月には新製品を市場投入するなど開発や改善といったPDCAを定着できたという成果も上がった」とする。



配管抜け防止キット『抜け止めくん』の構造

PDCAとは周知の如く、業務管理の改善方法でPlan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Act（改善）の頭文字をとったもの。アトムズでは従来、営業優先で主として閑散期に行っていたメーカーとしての商品開発や、既存品の改善がコロナ禍による新たな時間の使い方によって定着した。

こうした新製品の投入も含め、2021年度（9月決算）の着地は前年比で8㌫ダウン、コロナ禍以前の19年度比では5㌫ダウンといった内容で徐々に持ち直しを見せ、通常期への戻しへ向けて奮闘している。

◇

さて、この間市場投入された製品については先ずは昨年8月にVP管と排水鋳鉄管の接続に使用するカップリング「VCタイプ」、次いで10月には小口径のVP管、HI－VP管の接続に使用する塩ビ管用カップリング「GVタイプ」を上市。加えて今年に入って市場要望を受けて「VCタイプ」の呼び径50Aを新たにラインナップに加えている。

VCタイプは、パイプシャフト内の立て管等の排水鋳鉄管に同製品を使用してVP管、VU管をトルクレンチ1本で簡単に接続施工することができる。さらに特殊なゴムシーリングの形状でVPとCIPの接続も可能としている。

さらに同社にとっては2022年度となる10月1日に発売された新製品が〝配管抜け防止キット〟としてのアトムズカップリング用『抜け止めくん』だ。

本来、カップリングによって管同士の接合が外れることは無いが、仮に締付け不足などによる脱管のリスクを上下の補助具によって担保しようと開発された製品。肉厚6㍉のジョイント金具とアングルピースによってがっちりと支える。ジョイント金具ボルトには強度区分10・9の高強度ボルトを採用しているため、高トルク値での締付けが可能となる。

同社へは10月1日の発売を前に、既に9月時点での問い合わせも増加し、幸先の良いスタートに期待している。

現状、新築の箱もの物件などではカップリングは未だに脱管等のリスクがあるため、使用に対して緩和がされていない。但し、一部のサブコンなどでは、これまで自作の内製品でバンドなどを付けて、すっぽ抜けを防ぐ工夫を凝らす例もある。

こうしたニーズに応える『抜け止めくん』はこれまで有るようで無かった製品として注目されている。アトムズでは現在、呼び径で40Aから200Aまでの8種類をラインナップしているが、今後はさらに肉厚や40A以下や200A以上のサイズについても拡充するものとしている。

さて2022年度を見据えて小鹿島太郎社長は今後の取組みについて「カップリングの市場はこの20年で3～4倍へと広がり、裾野の拡大とともに単価についても、下がっている。簡単施工で省人化へと繋がるカップリングの優位性は脱管等のリスクを担保できれば、さらに採用は拡大していくものと思われ、安全性への注力を今後も図っていきたい。他方、お陰様で今年1月に当社は設立以来、満20歳となった。自社工場を持たない当社にとって、常に仕入先や販売先、また協力業者よって支えられてきた20年と深く感謝をしている。10月以降に、こうした御礼を含め、各社への訪問を再開していきたい」とした。